地域教育情報紙
（令和３年度）
第 ６ 号

風と共に

令和４年２月２４日発行
《担当》　富士･東部教育事務所
地域教育支援スタッフ
蔦木治彦 ・ 野澤今日太・飯室　毅

丹波小学校　次年度コミュニティ･スクールへ

丹波中とともに

次年度から丹波山村に学校運営協議会（CS：コミュニティ・スクール）が設置されます。これまでも地域と連携した教育活動を小・中学校で行ってきましたが、CSに向けて今までの活動を振り返り、どのような形で今後につなげていくかを地域の方を交えて構築した取り組みを丹波小学校（樋川和之校長）の渡邉徳彦教頭に伺いました。

「心豊かでたくましく生きぬく丹波の子ども」の教育目標のもと、地域とのつながりのある活動として「ささら獅子舞」「自然観察・伐採体験」「舞茸・大豆栽培」「スケート教室」「河川清掃」等を行ってきましたが、CSでは、伝統文化継承」「自然体験」「キャリア教育」の３本柱で地域の方々にご協力いただき、活動を行うことにしました。

●「伝統文化継承活動」：祇園祭（ささら獅子舞）の歴史や舞、しの笛を学び、文化に触れ継承していく。
●「自然体験活動」：丹波の自然である川・山林に親しむ。活動によっては保・小・中の連携で行う。
●「キャリア教育活動」：特産物を栽培・加工・販売（発信）することで村の産業を知り、キャリア教育に生かす。

これまでの活動を継承しつつ、地域の方々の思いを感じ「ふるさと丹波山村」を愛する心を育んでいきます。

※コミュニティ・スクール（ＣＳ）：学校運営協議会制度

学校と地域住民等が、力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能になる「地域とともにある学校」への転換を図る有効な仕組みです。学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことが目的です。学校運営協議会の役割として以下の３点があります。

・校長が作成する学校運営の基本方針を承認する　・学校運営に関する意見を教育委員会又は校長に述べることができる
・教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べることができる

富士・東部管内の公立小中学校におけるコミュニティ・スクール設置状況（令和３年１１月現在）

◎令和３年度現在、設置済みの学校

旭小学校(H29)、島田小学校・上野原中学校・初狩小学校・吉田小学校(H30)、秋山小学校・秋山中学校(R2)

◎令和４年度設置見込み（「令和３年度コミュニティスクール及び地域学校協働活動実施状況調査」R3.9 月実施による）

上野原西小学校・上野原小学校・上野原西中学校・山中小学校・東小学校・山中湖中学校
小菅小学校・小菅中学校・**丹波小学校・丹波中学校**

※令和３年度までの県内小中学校のコミュニティ・スクール累積設置校は５７校、１３市町村となっています。

優良PTA文部科学大臣表彰　大嵐小学校PTA

文部科学省では毎年、ＰＴＡの目的・性格に照らし、優秀な実績を上げているＰＴＡを表彰し、ＰＴＡの健全な育成、発展に資することを目的として表彰をしています。今年度は、長年の「学校・家庭・地域」との絆を深める活動が評価され、富士河口湖町立大嵐小学校ＰＴＡが受賞しました。

大嵐小学校は、明治７年に創立して大嵐地区の人々と密接に関わり合いながら、今年で１４７年の歴史を刻んできました。「たくましく生き生きとした大嵐っ子の育成」を教育目標に、少人数を生かした教育活動を展開しています。ＰＴＡの設立は昭和２５年で、コロナ禍で多くの活動が制約を受ける中で、「親子で新型コロナウイルスに負けない“ひまわり”を咲かそう」プロジェクトや地区の神社の例祭では屋台を出したり、運動会・集会・「大嵐っ子祭り」も行っています。また、「あいさつ運動」「通学路点検」活動を積極的に展開しています。

北都留森林組合　地域の小学校への森林環境教育

上野原小学校　間伐作業

島田小学校　卒業記念植樹

間伐材を活用した
木工クラフト活動

北都留森林組合（山口憲治組合長）では、森の幼稚園、小学生や中学生の間伐体験など森林環境教育プログラムを森林インストラクター資格所有の職員によって行っています。

上野原小学校では、１１月１２日に６年生が、八重山で間伐作業を行いました。また、島田小学校では、学校林において１１月５日には５年生が間伐作業を行い、１７日には６年生が自分たちで選んだ苗木で卒業記念植樹を行いました。さらに２５日には木工クラフト活動を行っています。

子どもたちが地域の仕事に興味を持ち、地域で生活しながら働くことを考える機会を持ってもらえるように、今後も支援を続けていきます。

ジュニア防災士講座　富士河口湖町

ペットボトルランタン

防災テント

段ボールベット

講義と備蓄品等

１月７日（金）に富士河口湖町役場コンベンションホールで、町内の小学生４～６年生５６名が参加した「ジュニア防災士講座」が開催されました。

町の地域防災課 渡辺大介係長が、「釜石の奇跡」の先例や富士山噴火による災害想定を説明し、「災害は『正しく恐れること』が重要」で、「日頃の準備」と「心構え」が必要と呼びかけました。

その後、ペットボトルランタン作りや段ボールベット、備蓄されているテントの組立を体験しました。

当日は、富士河口湖町地域防災課職員や山梨県富士山科学研究所、町の防災士会、町立教育センター、ケーブルテレビ河口湖等が連携して講座を開催し、子どもたちの活動を支援していました。

都留リーダーサミットリモート開催　都留市

都留市児童生徒連絡協議会が主催する「都留リーダーサミット」は、昨年度は新型コロナ感染拡大によって直前で中止になりましたが、今年は１月２１日（金）にリモートで開催しました。「私たちが考えるセーフコミュニティ」をテーマに、市内の小・中学校の児童生徒と顧問の先生、市長・教育長・教育委員をはじめとする市の教育行政の方々などが参加しました。

当日は全体会において、テーマにそって各学校で話し合い提出したレポート（提案校１１校）をもとに、安心安全な学校生活を送るための取り組みやきれいな環境を作るための取り組み、健康維持のための取り組みなどを紹介しました。

その後、３グループに分かれて全体会で提案された内容をもとに、各グループで一つのテーマに絞った討議が行われました。グループ内の中学生が司会進行を務め、ポイントを発表用紙に記入し、画面上で示しながら説明や理由を画面の向こうにいる人にわかるように発表し合っていました。GIGA スクール構想で学校に一人１台端末が導入されて５ヶ月が過ぎ、子どもたちも端末の操作に慣れており、各校からの参加やグループごとの討議も支障なく進行しました。最後に、上野 清教育長から、都留市の将来を担う児童生徒たちにアドバイスをいただきました。

GIGA スクール構想の現状（富士・東部管内）

都留市教育委員会　小中学校情報教育研究委員会による推進

○一人１台端末
　Microsoft Windows
○ソフト
　学習支援ソフト
　「ミライシード」
　協働学習用ソフト
　「ロイロノート」

富士・東部管内で唯一、Microsoft Windows 端末（2in１型）を採用して、市内の小中学生に貸与しているのが、都留市教育委員会です。今回は、担当者に経緯等を伺い、２学期（８月）開始と同時に運用を開始するまでの状況をお知らせします。

都留市教育委員会には、小中学校情報教育研究委員会が以前からあり、これまで様々な課題を研究・検討してきました。３年前に GIGA スクール構想が文部科学省から提示された時から同委員会でも検討されることになりました。同時に、既存の電子黒板や無線 LAN の整備に向けても教育委員会内で検討されました。

端末使用（２学期８月下旬）までの研修会
R3,3　①GIGA スクール構想とは何か（校長・教務主任対象）
　　5　②GIGA スクール構想とは何か（全教職員対象）
　　7　③端末操作講習（全教職員対象）
　　7　④学習ソフト操作・授業管理ソフト講習（全職員対象）
　　8　⑤電子黒板操作研修（希望職員対象）

現在多くの仕事で活用されている OS を子どもの頃から慣れ親しむこと（実社会への継続性）と機能性を主に考えて、端末を決定しました。また、通信環境を市のセンター集中型から直接接続できるように変更しました（現在電子黒板は普通教室に１台整備されています）。内蔵するソフトとして、小・中学生共通に学習支援ソフト「ミライシード」を導入し、「ドリルパーク（問題集）」や「オクリンク」等の機能活用研修会などを行うことで教職員への定着を進めています。特に中学生には自由度の高い協働学習が行える「ロイロノート」を導入しています。

現在は、端末の持ち帰り学習に向けて、いくつかの学校（学年）で先行的に試験運用を行っています。

大月東小学校　ICT ミニ研修と ICT 通信でスキルアップ&働き方改革

大月市の ICT センター校でもある大月東小学校(藤巻 豪校長)では、昨年度から PC リーダーの武藤淳一教諭を中心に教職員に向けた ICT 通信「ICT る？(あいしてる)」を発行しています。同校の取組を武藤教諭にまとめてもらいました。

１、毎週のＩＣＴミニ研修で教職員のスキルアップ

本校では、毎週水曜日の終礼後、ICT のミニ研修を行っている。毎週 15 分程度の時間で、GIGA 端末の活用を中心に、研修を行ってきた。１月現在 33 回を数える。Microsoft Teams や ELMO の xSync Classroom の活用を中心に、授業改善や働き方改革につながる内容を共有している。

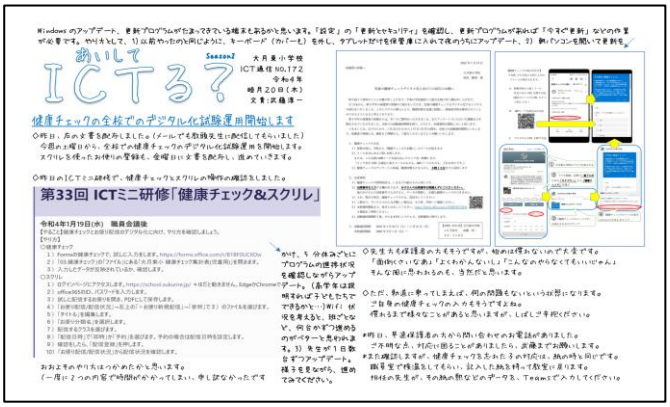
２、毎日のＩＣＴ通信「ＩＣＴる？」で情報共有（1/21 現在　173 号）

週１の研修だけでは伝わりきらない様々な情報を、ICT 通信を毎日発行することで共有している。各クラスの実践、新しいアプリの活用方法、文科省からの通達、セミナー情報なども紹介している。

３、Microsoft Teams をハブに学校業務のデジタル化

文科省の推進する学校業務のデジタル化を進めている。日報は Teams でスマホからも確認できる。
児童の健康チェックや欠席連絡も Forms から入力。お便りもデジタル配信でペーパーレスに！

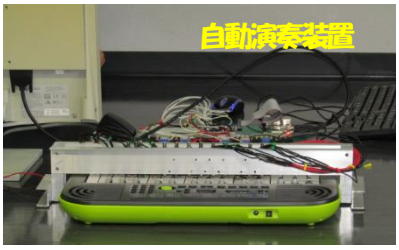
NO.147 各クラスの GIGA 端末活用の様子を紹介



NO.172 ICT ミニ研修の内容を紹介

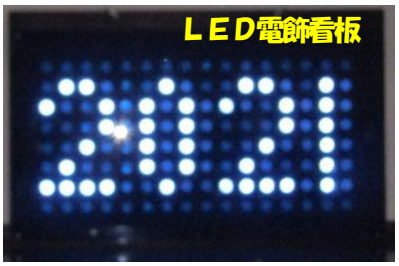
県下工業系高校生プログラミングコンテスト

１２月８日（水）に、県高等学校教育研究会工業教育部会が主催する「第３８回県下工業系高校生プログラミングコンテスト」の競技部門と作品部門が県立産業技術短期大学校 都留キャンパス（菊島圭一次長）で行われました。富士・東部管内からも競技部門に富士北稜高校と都留興譲館高校が参加しました。また、作品部門には都留興譲館高校の４チームが参加しました。



競技部門では、各工業系高校（韮工・甲工・富士北稜・都留興譲館）から１１チームが参加し、各チームで与えられた課題を制限時間内にプログラム作成しました。使いなれたＰＣを持ち込み、チーム内で協力して作業を進めていました。

作品部門では、「課題研究」の授業内で取り組んだものを「プロブラミング部門」「自由研究部門」「組み込み部門」に分けて発表しました(参加11 チーム)。最優秀賞には、都留興譲館高校チームキースのＬＥＤ１２８個を８×１６に配置、コンピュータ制御して文字を出す「ＬＥＤ電飾看板」が選ばれました。



高等学校における通級による指導研究発表会　ひばりが丘高校

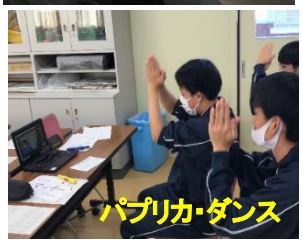
１月２４日（月）に県立ひばりが丘高校（渡辺圭一郎校長）において、令和２年度から２年間「高等学校における通級による指導」研究指定校として、研究・実践してきた成果の発表を２月８日（火）に県教育委員会主催の「事業成果報告会」に先立って、学校内および地域の中学校対象にリモートで行いました。

当日は「生徒の特性に応じた自立活動による通級」を副題に、「持続可能な通級指導構築」を目標として、教育課程における位置づけ（学校設定科目「ライフスキルⅠ・Ⅱ」）や授業の実施内容と状況が報告され、別に「発達障害のある児童・生徒に使える『進路選択支援マップ』」の紹介があり、成果や今後の課題が提示されました。

高等学校における通級による指導は、比較的軽度な発達障害等による特性から様々な課題（特にコミュニケーションに関する課題）を有する生徒が、自立と社会参加を目指し、学習上・生活上の困難さを改善・克服するための指導です。特別支援学校の自立活動に相当する内容で、通常の教育課程に加えて実施します。通級指導の受講は生徒・保護者の希望が前提となります。

ふじざくら支援学校×富士北稜高校　リモート　交流活動

１２月９日（木）に県立ふじざくら支援学校（望月公校長）と県立富士北稜高校（塩入由里校長）が、今年度２回目の交流会を行いました。



今回は、富士北稜高校生徒の企画による交流会で、４つのグループに分かれてリモートによる交流を行いました。吹奏楽部による「ミニコンサート」では、人気曲の演奏や楽器クイズをして交流しました。福祉健康系列による「健康体操」では、パプリカの曲に合わせてダンスを行い、お互いの生徒が画面越しに一緒に踊りました。建築デザイン系列による「小物づくり」では、生徒が加工した木材をふじざくら支援学校の生徒が説明を受けながら組み立てました。また、ボランティア委員による「クリスマスクラフトづくり」でもサンタやツリーなどの立体オブジェを作る活動を行いました。相手に伝えよう、理解しようという和やかな雰囲気のなかで、地域の同世代のつながりを感じる体験ができました。

上野原高校　第１１回 総合学科発表会

《　内　容　》
総合司会 3-2　中沢彩音
　　3-3　西島　央
①開会行事
②総合学科の紹介
　　3-3　岡本晃來
　　3-3　白鳥乃亜
　　3-1　遠山杏佑
③発表Ⅰ　１年次
　ドリームスピーチ
④発表Ⅱ　２年次
　課題探究発表
⑤課題研究分科会
　各会場　１４会場
⑥発表Ⅲ　３年次
⑦閉会行事

課題研究分科会

県立上野原高校（棚橋雅一校長）は、平成 23 年に総合学科に改変し、キャリア教育を中心とした探究学習を進めています。

12 月 18 日（土）には、上野原市長、教育長、教育後援会長、学校評議委員をはじめ、保護者や近隣の中学生らが来校する中で、「第 11 回総合学科発表会」が行われました。

１年次の「産業社会と人間」、２年次の「総合的な探究の時間」、３年次の「課題研究」の時間を柱として、「夢の探索」「夢の確立」「夢の実現」を目標に行っています。

高校入学時に漠然とした将来像しか抱いていなかった生徒が、「夢を見つけ、探究し、その実現に向けて努力している」姿を、各学年の発表の中で感じることができました。１年次から継続してきた発表の経験が、３年次生の分科会でのプレゼンテーションに生かされていました。

「C-Ｔａｂｌｅ」× 都留興譲館高校 企業実習

都留市上谷の「Ｃ－Ｔａｂｌｅ株式会社（田邉耕平 代表）」※は、県立都留興譲館高校(小佐野景賀校長)の３年電子工学科の課題研究を９月から支援しています。「みんなで『ものづくり』を体験しよう」をテーマにファシリテーターの本田久仁子さんの進行で、約１０回にわたるワークショップを実施しました。

生徒たちを２グループに分け、C-table の社員も参加して、デジタルを活用して学校生活をおもしろくするアイデアを出し、ペーパープロトタイプでアプリ開発を行いました。

講座では、生徒が①「学校」のカスタマージャーニーマップの作成→②課題の絞り込み→③アイデア創発→④画面遷移図作成（アプリ画面の移り変わりを図にしたもの）→⑤ペーパープロトタイプの作成という、アプリ作成の過程を経験しました。また、実習後にギャップモニタニングを行い、生徒の行動から自己の強みや弱み分析を行いました。生徒からは「アプリを作るのがこんなに大変だとは思わなかった。考えが形になり主体的に活動できた」との感想がありました。

※Ｃ－Ｔａｂｌｅ株式会社…都留市でシステム開発事業、まちづくり事業を行っている。LINE 株式会社主催の「#みんなの LINE ビジネス」コンテストで、まちの toolbox と運営している「まちマーケット」が特別賞を受賞した。

南北都留教育相談ネットワーク会議　第２回講演会・第３回書面開催

南北都留教育相談ネットワーク会議（会長：角田広美都留児童相談所所長）は、今年度から３回の会議の中で１回を「今日的な教育課題を共有・学習するための講演会」の実施とすることになりました(他の２回は、構成１団体に１提案をしていただき、討議を行う形式）。１２月１日（水）に南都留合同庁舎において第２回会議が行われました。山梨県チーフスクールカウンセラーの保坂三雄氏を迎え、「愛着障害とその克服」という演題で事例を交えながらの学習会となりました。

また、２月２日（水）には第３回会議が富士ふれあいセンター ふれあい推進スタッフ 櫻井広太氏からの提案で行われる予定でしたが、感染急拡大に伴う県からの臨時特別協力要請に基づき書面開催となりました。

高校の特徴のある取り組み

キャリア教育

令和３年度のカテゴリー
①社会・地域
②医療　③芸術
④文学　⑤文化
⑥言語　⑦食物
⑧心理　⑨生活
⑩スポーツ　⑪自然科学

特徴のある取り組み　都留高探究プロジェクト

県立都留高校（廣瀬浩次校長）では、１・２年次生が合同で、「総合的な探究の時間」＝「都留高探究プロジェクト」に取り組んでいます。４月に興味のあるカテゴリーに分かれ、その中で５人程度のグループを作り、課題を設定して興味関心のあるテーマを深く掘り下げて研究を行っています。

半年後の中間発表会では、これまでの研究の成果をまとめ、他の生徒の前で発表しました。質疑応答等を経て、自分達の研究の方向性や今後の課題を確認し、今後の研究の参考とする機会となっています。単に調べたことをまとめたり、感覚で善し悪しを判断したりするのではなく、数値等の客観的な根拠によって評価や仮説・実験・考察などを行い、他人に対してわかりやすく発表する経験を通して論理的な思考力を培っていきます。２月にはカテゴリー別の発表会が行われ、３月には優れた研究グループが全体発表会の場で、プレゼンテーションを行います。探究活動の中で、主体性、課題発見力、解決力・論理的思考力・行動力・コミュニケーション力・表現力など、今の社会で求められている力が身につきます。

これまでの「つる探」での研究テーマ（例）

◎「上大月駅を都留高校前駅に」（H29 年度）→令和元年５月「上大月駅」看板掛け替え「副駅名　都留高校前駅」
◎「子ども食堂の実態」（R2 年度）→山日新聞「10 代の意見」掲載→県子育て支援局子ども福祉課よりお便り
◎「都留高校前駅デザインプロジェクト」参加→R3 2 月「上大月駅（都留高校前駅）」駅舎リニューアル
◎「大月桃太郎伝説」「おつけだんごものがたり」紙芝居→R3 桃太郎サミット 2021in 大月オープニングイベント参加

特徴のある取り組み　富士河口湖高校　ＫＩＰ（１年）　Kawako　Insight　Program

県立富士河口湖高校（小俣義一校長）では KIP（KAWAKO INSIGHT PROGRAM）として「総合的な探究の時間」の取り組みを行っています。自分が生まれ育ち、生活している地域の課題について主体的・協働的な探究活動を通して理解を深め、将来の地域リーダー人材の育成を目標に、３年間をかけて自分の進路に繋がるように活動を行っています。１年次「知る」、２年次「考える」、３年次「発信する」とテーマを持った継続的なプログラムとなっています。

今回は、中学校を卒業して富士河口湖高校に集った子どもたちに、キャリア教育と共に「地域課題について知る」をテーマに「地域の課題や自らの将来について意識し、把握する」を探究課題とした１年生の活動を紹介します。

① 探究学習とは何か
② 山梨の文化・歴史・文学 1～5
③ 富士山周辺の自然 1・2
④ 学術分野を知る 1～7
⑤ 地域の現状と課題 1・2
⑥ 課題設定　1～3
⑦ 情報の収集　1・2
⑧ 整理・分析　1・2
⑨ まとめ・表現 1～6 発表を含む

「山梨の文化・歴史・文学」では、県立博物館・文学館・美術館から講師を招聘し講義を受けた後、実際に施設見学を行っています。

「富士山周辺の自然」では、「ロードキル」や「動植物」等を富士山アウトドアミュージアムや自然動物写真家から講義を受けています。

「学術分野を知る」では、キャリア教育の観点から上位学校での「学び・現状」について学び、身の回りの現象と学問、仕事がどのようにつながっているかを理解します。講師には、都留文科大学・健康科学大学・山梨大学・山梨学院大学山梨県立大学の先生方を招聘しています。

「地域の現状と課題」では、河口湖商工会と富士吉田公共職業安定所の方からお話しを伺いました。こうした「知る」活動を通して地域理解を図り、子ども自身が自ら考え、「課題」を設定していくプログラムとなっています。

地域教育情報紙「風と光と」第５号でお願いしましたアンケートへの御協力ありがとうございました。次年度の情報紙に向けて貴重なご意見をいただきました。今後も各事業への御意見御要望、活動の情報がありましたら、御連絡ください。
【　カラー版は、富士･東部教育事務所の HP からご覧いただけます。
URL：http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html　】

※連絡先　富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ　0554-45-7841

大学生が起業！ 地域の魅力発信プロデュース事業　モモハナ

山梨県立大学総合政策学部総合政策学科に在学中に、竜沢華林さんは地方都市の魅力発信を掲げるプロデュース事業「モモハナ」を起業しました。「モモハナ」は、女子大生が代表を務め、山梨のいいもの、いいことを女子視点でプロデュースし、広く発信していくことを目指す女子グループです。

大学で学び、自分にしかできない地域振興の形を模索する中で、祖母の実家に関連した大月市に古くから民間伝承として語り継がれている「桃太郎伝説」を題材に、「桃太郎もち」を開発しました。「桃太郎もち」は、大正時代に竜沢さんの祖母の家が大月市の桂川館（けいせんかん）を営んでいた際に、販売していたそうです。しかし資料等も散逸していたため、レトロな雰囲気を保ちつつ「食べて可愛い、見て可愛い」をコンセプトに商品開発をしたそうです。その後も山梨の企業と連携して「モモハナ」の商品が作られています。また、大月市とも地域活性化に関する協定を締結し、「大月桃太郎サミット」等への協力や大月市の地域振興に携わっています。

現在、「モモハナ」は、県立大学の現役学生に引き継がれて活動が行われています。

フードバンク都留　4月スタート

河口智賢副住職

フードバンク都留の拠点

フードバンクとは、十分に安全に食べられるのに、箱が壊れたり、印字が薄くなったりして、販売できない食品を企業から寄贈してもらい、必要としている施設や団体に無償で提供する活動です。

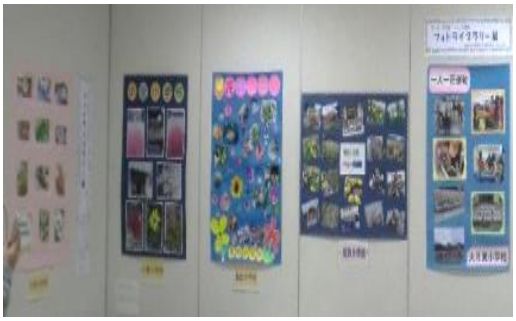
世界では、飢餓に苦しむ人々が１０億人に達し、３秒に１人の子どもが5歳未満で命を落としています。一方、日本では、１人１日当たり１食分の食料が廃棄されています。認定NPO法人フードバンク山梨（米山恵子理事長）は2008年10月に設立（2009年9月法人格取得）し、市民や企業から提供されたまだ十分に食べられるもったいない食品（食品ロス）を福祉施設にお渡しする「フードバンク活動」を開始しました。フードバンク山梨は、山梨県における食のセーフティネット(安全網）を支えるフードバンクシステムを構築し、食べ物が無駄なく消費され、誰もが食を分かち合える心豊かな社会づくりをめざして活動しています。

これまで南アルプス事務所と中央市ひまわり支所で活動を行ってきましたが、富士・東部地域の活動拠点として令和４年4月からフードバンク都留「（仮称）ぐんないや織」が開所されます。場所は、夏狩にある耕雲院です。耕雲院では、以前から都留文大生（つるっ子プロジェクト）が主体となった「つる食堂（子ども食堂）」が運営されていましたが、今回「ぐんないや織」の事業内でも「フードバンク」「子ども食堂」そして社会教育活動として「学習支援」も行うことになります。地域の子どもたちを支える地域内循環やSGDｓを意識した活動に取り組み、個人・企業・行政の皆さんと共に、地域として支えていくことを目指していると河口智賢副住職は語っています。

花の里・北都留　一人一花運動　フォトライブラリー展

11月8日～12月10日にかけて、北都留教育会館２階集会室において「フォトライブラリー展」が開催されました。今年は、例年以上の参加者があり、花の写真によって展示室が華やいでいました。

北都留地域教育推進連絡協議会（会長：小林信保大月市長）では活動の一環として「一人一花運動」を進めています。４月に北都留地区の主な構成団体と、小学３年生、保育所(園)・幼稚園の年長児全員に花の種約2,000袋を配付して、潤いのある環境づくりに取り組んでいます。



シオジ森の学校 活動報告（秋のトレッキング・ロケットストーブ作り・イス作り）

トレッキング

シオジ森の学校では、10 月末に秋のトレッキング、１１月には森で楽しもう、ロケットストーブ作り、椅子づくり教室を開催しました。

コロナ禍の中ですが、自然観察教室やものづくり教室に多くの参加をいただきました。

次年度は、４月１６日（土）午後にオープンキャンパスを大月市民会館で行います。

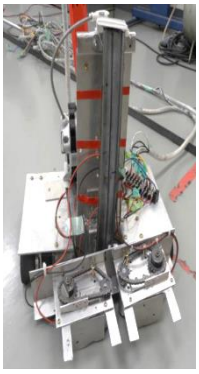
ロケットストーブ作り

椅子作り教室

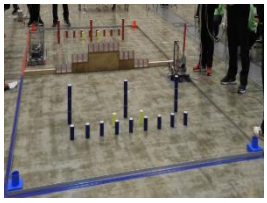
都留興譲館高校 工業４科課題研究校内発表会

県立都留興譲館高校（小佐野景賀校長）では、1月１４日～21 日にかけて校内で工業４科ごとに「課題研究発表会」を開催し、機械工学科、電子工学科、制御工学科、環境工学科の３年生が専門課程で学んできた内容をもとに、今年度取り組んできた課題研究の成果を発表しました。例年２月には、うぐいすホールにおいて各科の代表による発表会があり、中学生も参観に訪れますが、コロナ感染症の急拡大に伴い、優秀発表はネット上に限定公開（2/14～3週間）されます。地域のものづくりを支える工業科進学を考えるヒントとしてください。

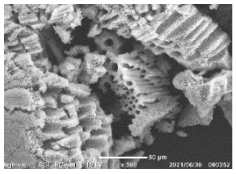
【機械工学科】：：《ロボット製作》



ロボコン山梨 2021 に出場する対戦型競技ロボットを作成しました。今年の課題は空き缶を指定の場所にいくつ入れられるかを競いました。設計から始め、動作確認を繰り返し、当日は 19 チーム中３位に入賞しました。左はフルコンボ号です。



【環境工学科】：：《光触媒の研究》

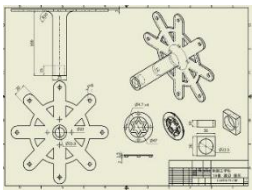


酸化チタンを生成し電子顕微鏡で観察を行いました。また紫外線照射による光触媒効果を確認しました。左は多孔質構造が分かる写真。

《木材を使用したものづくり》

木工班では環境に配慮できる技術者を意識し、木材・廃材を活用して様々な椅子などを製作しました。

【制御工学科】：：《3D-CAD 設計と3D プリンタ》



２次元製図では難しい立体図を３D-CAD を用いて視覚的に表現することで、3D プリンタで立体造形を行いました。おもちゃの「ギアブロック」を参考に歯車を利用した遊園地のアトラクションを設計し、熱溶解積層方式の３Dプリンタで遊具を製作しました。

【電子工学科】：：《LED 電飾看板の製作》

学園祭や学校行事で文字やイラストを表示するLED 使用の電飾看板を製作。128 個(8×16 列)のLED をマイコンでコントロールできるように、プログラムを組み、県工業系高校プログラムコンテストで最優秀賞を受賞しました。